

2011

PCI 患者からの要望を取り入れたパンフレットによる退院指導の効果

¹IMS グループ 医療法人明芳会 横浜新都市脳神経外科病院

近藤 理恵¹、尾形 明美¹、豊島 栄美子¹、芦田 和博¹

【目的】当院は冠動脈疾患を高率に合併する脳血管障害患者が多く、治療ニーズが高かった循環器科を2011年3月に併設し同年5月より初めてPCIが開始された。PCI導入時は循環器領域未経験の看護師が多く、入院期間中に的確な患者指導がされぬまま退院していくという現状があったため、「患者が要望する内容」を取り入れた退院指導が必要と考えた。【研究方法】1. 2011年8月～9月 生活習慣を含む11項目から退院前に知りたい内容を42症例中31例にアンケート調査し、パンフレットを作成。2. 同年10月～12月 作成したパンフレットによる退院指導を受けた患者41症例中31例に生活習慣改善の理解度につきアンケート調査【結果】1. 退院前に患者が知りたいと思う項目は運動・病気・食事・検査がそれぞれ約3割を占めていた。2. パンフレットの内容は93%がわかりやすいと回答しており、指導内容は全員が退院後の自宅での生活に役立つと答えた。【考察】今回PCIを受けた患者は冠危険因子以外にも脳外科病院の特徴でもある脳梗塞、内頸動脈狭窄症の既往を有しており、これらの背景には生活習慣病が起因する。全身動脈硬化を有する当院の患者においては再狭窄や新たな冠動脈病変・脳血管病変が進展するおそれがあり、生活習慣改善に向け、より適切な行動変容が必要である。今回、「患者からみた要望を取り入れたパンフレット」による退院指導は患者の理解度を高めるきっかけになったと考える。現在、F/UCAGでの入院時にどのような行動変容つながったか調査中であり、併せて報告する。